

が国の廃棄物の適正処理等に関する知見・経験・技術等を活かし、途上国等における海洋プラスチックごみの効果的な流出防止に貢献することとしています。加えて、世界的に海洋プラスチック対策を進めていくための基盤となるものとして、海洋プラスチックごみの実態把握や科学的知見の充実にも取り組むこととしています。

## ② プラスチック資源循環戦略

第四次循環基本計画の閣議決定を受けて、海洋プラスチックごみ等による環境汚染が世界的課題となっていること、我が国は国内で適正処理・3R（リデュース、リユース、リサイクル）を率先し、国際貢献も実施する一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄量であることやアジア各国による輸入規制が拡大していること等の課題に対応するため、3R+Renewable（再生可能資源への代替）を基本原則としたプラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略「プラスチック資源循環戦略」を策定しました。

## ③ 海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針

「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」が、平成30年（2018年）6月に改正されたことを受け、同法に基づく政府の基本的な方針が変更されました。これにより、内陸域から沿岸域までの流域圏で関係主体が一体となった対策を実施すること、漂流ごみ等について漁業者等の協力を得ながら処理を推進すること、廃プラスチック類の排出抑制・持続可能なリサイクル・生分解性プラスチック等の利用を推進すること、マイクロプラスチックの海域への排出を抑制すること、多様な主体の連携を図ることなどが新たな取組方針として盛り込まれました。

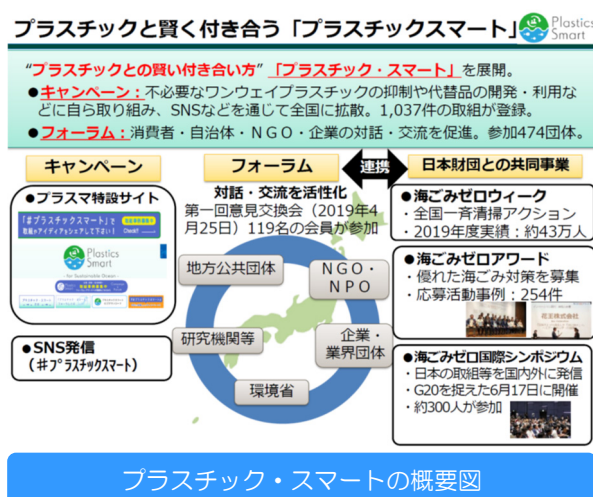
## イ 個別省庁の取組

### ① 環境省（プラスチック・スマートの展開等）

環境省では上述の全体計画に基づき、様々な海洋プラスチックごみ対策を行いました。

まず、海洋プラスチックごみを含む海洋ごみの回収・処理や、その発生抑制対策の推進のため、海岸漂着物等地域対策推進事業により地方公共団体への財政支援を行いました。

また、平成30年（2018年）10月より「プラスチック・スマート<sup>7</sup>」キャンペーンを立ち上げ、展開することで、企業、団体、個人の方々による不必要なワ



<sup>7</sup> 「プラスチックスマート Plastics Smart（環境省）」 <http://plastics-smart.env.go.jp/>

ンウェイプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底など、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進しています。

調査に関しては、海岸や沿岸、沖合海域において、マイクロプラスチックを含む海洋ごみの組成や分布密度、マイクロプラスチックに吸着しているポリ塩化ビフェニル（PCB）等の有害化学物質の量等を定量的に把握するための調査を実施しました。また、平成28年（2016年）5月のG7 富山環境大臣会合で合意された海洋ごみに関する5つの優先的施策の一つであるマイクロプラスチックのモニタリング手法の標準化及び調和に向けた調査等を実施しました。

さらに、海洋流出が懸念されるプラスチック製品の素材転換の社会実装化が急務であることから、生分解性プラスチック等の代替素材への転換・社会実装を支援するため、令和元年（2019年）度から「脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」を実施しています。

## ② 経済産業省（海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップ）

経済産業省では、廃棄物の適切な管理が何より重要であることを前提に、3Rの着実な推進を行い、それでもなお廃棄物が海洋流出するリスクに対応していくため、新素材・代替素材の技術開発の促進等、イノベーションによる解決で世界への貢献を目指すことにしています。具体的な取組として、官民一体で連携し、海洋生分解性プラスチックの開発・導入普及を促進していくため、海洋生分解性機能に係る新技術・素材の開発段階に応じて、技術課題はもとより経済面や制度面も含め、今後の主要な課題と対策を取りまとめた「海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップ」を令和元年（2019年）5月7日に策定しました。



海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップの概要図

令和元年5月

		2019年	2020年	2021～25年	～2030年	～2050年
<b>実用化技術の社会実装</b> (MBBP1.0)  PHBI、PBS等  (主な用途例) レンズ袋・ゴミ袋 ストロー・カトラリー 洗濯用ボトル 農業用マルチフィルム等	海洋生分解機能に係る信頼性向上	ISO策定・課題整理	ISO提案【産業技術総合研究所、日本バイオプラスチック協会(JBPA)】	生分解機能の評価の充実に向けた試験研究【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)等】		
	量産化に向けた生産設備拡大、コスト改善		量産能力の増強	生分解性プラスチック製造のバイオプロセスの改善【NEDO等】		
	需要開拓  識別表示、分別回収・処理に係る検討		国内外の出展、ビジネスマッチングの促進【グリーン・イノベーション・マリア7・アライアンス(CLOMA)】	グリーン公共調達	識別表示の整備【JBPA】	分別回収・処理に係る検討
<b>複合素材の技術開発による多用途化</b> (MBBP2.0)  不織布(マスク等)、発泡成形品(緩衝材等)等			セルロースナノファイバー等のコスト削減、複合方法の加工性の向上【NEDO等】			
<b>革新的素材の研究開発</b> (MBBP3.0)  肥料の被覆材 漁具(漁業・養殖業用資材等)等			革新的素材の創出に向けた海洋生分解性メカニズムの解明【NEDO等】	生分解コントロール機能の付与	海洋生分解性メカニズムを応用した革新的素材の創出	肥料の被覆材 漁具(ブイ)

※MBBP: 植物由来(バイオマス)の海洋生分解性プラスチック(Marine Bio-degradable Bio-based Plastics)  
 ※海洋生分解性プラスチック: 海洋中で微生物が生成する酵素の働きにより水と二酸化炭素に分解されるプラスチック

海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップ(概要図)